平成17年度 危険物安全週間

「危険物 かさねる無事故の 金メダル」

平成17年6月5日（日）～6月11日（土）までの7日間は「危険物安全週間」です。

これは、「危険物」を取り扱う事業所における自主保安体制の確立を図るとともに、広く国民の「危険物」に対する意識の高揚及び啓発を推進する目的で全国一斉に実施されます。

今日、石油類をはじめとする「危険物」は、事業所などで幅広く利用されるとともに、私たちの生活に深く浸透し、その安全確保の重要性はますます増大しています。

消防法では、公共の安全を守るために、「発火性」「引火性」「火災発生の危険性」「火災拡大の危険性」「消火の困難性」が高い物品を「危険物」と指定し、その性質によって6つに分類し、それらの貯蔵、取扱い、運搬などに規制を設けています。

しかし、最善策は日頃から「危険物」に関しての性質の把握や施設の点検などを実施し、災害を未然に防ぐことです。

私たちの松前町にも、「危険物」を貯蔵又は取り扱っている施設が約500か所あります。

こういった施設における安全対策はもちろんですが、広く一般に使用される自家用車の燃料や暖房器具の燃料といった身近な「危険物」に対しては、ご家庭でも認識を今一度深め、安全に利用し、豊かな暮らしに役立てましょう。

防災一口メモ

「地震発生のメカニズム」

日本で発生する地震には、大きく分けて2つのタイプがあり、地震を引き起こすメカニズムは、まったく異なります。

1 プレート境界型（海溝型）地震

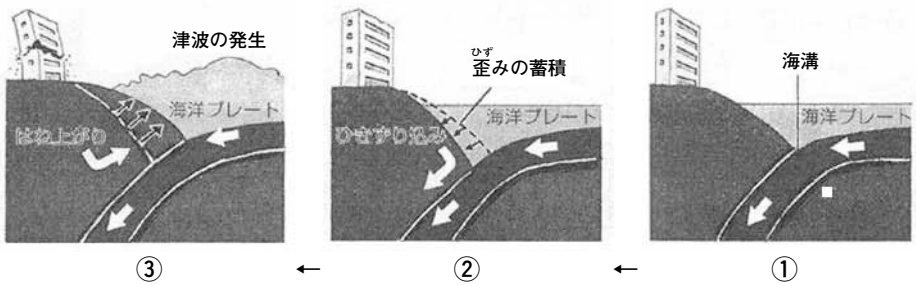
海溝に沈みこんでいるプレートの変形が限界に達し、元に戻ろうとして急激に運動する時に発生する地震です。マグニチュード8クラスの巨大地震が多く、過去何度も大きな被害をもたらしています。このタイプの地震は、数百年程度の間隔で繰返し発生することが分かっています。また、津波を伴うことが多いのも特徴です。

近い将来に発生が予想されている東海地震や東南海・南海地震も、このタイプの地震であると考えられています。

2 「活断層型（内陸型）地震」

阪神・淡路大震災に代表される活断層型（内陸型）地震は、内陸にある「活断層」と呼ばれる地面の裂け目が動いて起こります。

「活断層」とは、約200万年前から現在までの間に繰返し活動し、将来も活動することが推定される断層のことで、日本には約2000の活断層があるといわれています。

活断層型地震はプレート境界型に比べ規模は小さいのですが、「内陸型」と呼ばれるように、私たちの住んでいる直下で地震が発生することがあるので、震源からの距離が近くなり、大きな被害をもたらす可能性が高いのです。

プレート境界型地震